鶴岡市総合計画審議会　第３回厚生専門委員会（会議概要）

○　日　　時　　平成３０年８月２１日(火)　　午前１０時から
○　会　　場　　鶴岡アートフォーラム　２階　大会議室
○　委員発言の概要

・現行計画と違う部分、新しい部分又は特に力を入れたいものに二重丸などのマークがあると議論しやすい。
・介護の仕事の魅力を向上することについて、もう少し詳しく書いてもらうとわかりやすい。
・多様で高度複雑化する保育ニーズとあるが、その高度ということが何を意味しているのかわからない。
・高度という文言の使い方については、ご注意願いたい。
・ノーマライゼーションという文言については、その理念を包含するインクルージョンに変更できないか検討願いたい。
・親亡き後の生活支援の充実を図ることについては、今後の高齢化社会の進展を踏まえて、知的障害者に限定しない方がいい。
・市立病院の患者アンケートの実施については、回答してくれた方に返す責務があると思うので、その結果を市民に返すなんらかの形を作ってもらいたい。
・市立病院の接遇研修については、その成果がでないことが課題だ。今後に向けて検討していただきたい。
・荘内病院に関して、患者サービスの向上を図るためアンケートを実施するのではなく、これからは対話だと思う。患者サービスの向上や市民への理解を図るための対話を通じというような表現の方がいいのではないか。
・地域の医療は、市民が守っていかなければならない。そういう時代に来ている。要求、要望する時代は終わったと思う。対話や地域とのコミュニケーションを図るような形がいい。
・高速交通網の整備促進について、すべてに関わることなので、実現に向けて早急に進めることが必要だ。鶴岡がのんびりとしていることが市民として腹立たしい。
・生活習慣病とがん予防の推進については、並列にしないで別立てにしたほうがいい。健診の受診率の向上や子どものがん教育についての取組を書いてもらいたい。また、禁煙などたばこ対策の取組も書いてもらいたい。
・健康寿命の延伸に関連して、ロコモティブシンドロームについて一切触れられていないので、是非記載してもらいたい。
・総務省の自治体戦略 2040 構想研究会の報告書を念頭に入れて､総合計画を作ったらいいのではないか。
・医療の提供に関連して、かかりつけ医と相互理解に努めという文章、地域の医療機関との連携や機能分担という文章が理解できない。

・鶴岡市としての荘内病院の位置付けをもう少しはっきり示してほしい。なぜ、鶴岡のかなりの人が酒田にわざわざ出向くのか理解できない。
・これからの 10 年、進歩する IT の技術をどのように施策にいち早く入れていくかがこれからの課題だ。例えば、介護などでもロボットの導入をもっと促すなど行政として早く取り組んだらいいのではないか。
・記載しているうつ病などの精神疾患に関する知識の普及は大変重要だと認識している。
・うつ病等の患者がもっと早く医療に結び付けられないものかと考えている。病気にスティグマを感じているのが大きな要因ではないかと思うが、そうではないということを知識の普及で伝えられるような具体的方法を考えてもらいたい。
・荘内看護専門学校について、すごく意欲がある学生がいっぱいいるので、定員２０名から更に増やすことが必須ではないか。
・子供が育つ上では、兄弟は非常に重要。兄弟が少ないということが、やはり子供の成長に大きな影響を与えているのではないかなと思っている。「ケヤキ兄弟」という伝統を現に受け継いでいる地域がある訳ので、そういったことを学んではどうか。
・高度最先端医療を取り入れて、患者からも利用者からも選ばれる市立病院になることが、病院経営の健全化にもつながってくると思う。
・病院サービスというのは、患者への優しい言葉かけ、接遇、確かな治療、信頼できる医療というところが一番の患者サービスであると思う。信頼できる市立病院になっていただければと思う。
・新たに設置された子育て支援包括支援センターにこれから期待する。更にもっと踏み込んで、母親世代にタバコは良くないとか、朝食を食べる生活習慣の大切さだとか、運動習慣の必要性、親も子供も含めて一緒に教育する場として機能すればもっと良いのではないか。
・若い世代の女性の運動習慣が一番少ないというデータもあるが、その世代は子育てが忙しくて自分の時間を作れない。
・親が、子どもと同じ場で運動ができたり、健診ができたりというような、子どもと一緒に行けるところで必要な支援、サービスが受けられる場も考えてほしい。
・行政などの相談窓口が充実してくことも大切だが、そこからの横のつながりで、お母さん同士の輪を広げ、その中で子育ての悩みなどを解決していく機会や場があって充実していくと良い。
・ファミリーサポートなど行政の窓口の敷居が高いと感じているお母さんも多い。
・KIDS DOME SORAI の子育て遊戯施設に期待を持っているが、有料ということですごく落胆されている声をたくさん聴く。厳しい財政状況と思うが、市の方で鶴岡市民だけでも使いやすいようにしてほしい。
・小真木原運動公園に行くまでの間、車椅子の方が体育館の近くまで行けずに困っている。障害者の地域自立支援の総合的な推進の現状・課題に公共施設等のバリアフリー化が書かれているので、車椅子の方を含めどういう障害の方でも施設の近くまで行けるバリアフリー化、道路の整備ということを切にお願いしたい。
・荘内病院の先生方、看護師、職員も一生懸命にやっている、日本海病院との大きな差は医師の数だ。日本海病院を作るに当たっては、山形大学医学部の受け皿をというような意味を兼ね作られ

た経緯がある。だから、ドクターの数が圧倒的に違う。

・都会に医師が流れること、それは基本的な国内の流れ、日本の問題だ。

・荘内病院では院長はじめ管理者の皆さんが大変苦労して、日本全国の大学に回って医師の派遣を要請しているが、なかなか成果が上がらないし、まだまだ上手くいかない。そのへんに原因があると思っている。忙しいと説明も不十分になる。

・医療レベルからすると決して荘内病院が日本海病院に負けているとは思っていない。説明不足とか、いろいろなものが重なっている。自分が病気になったら荘内病院に行くかわからないと言われたが、そういう方が多いので現状の結果になっている。

・鶴岡市民は、荘内病院を温かく見守っていただきたい。

・特に地域振興懇談会の意見を見てみると、行政への要求という感じがする。これからは役所にお願いして、物事が進むという時代ではなくなる。自分事として捉えていないと感じる。

・総務省の有識者会議の自治体戦略 2040 構想研究会でも、自治体もこれからの 2040 年の在り方としては、人口縮減時代において新しい公共心をベストミックスというか、そのためのプラットホームを作る役割だみたいなことが書かれていたと記憶している。

・お役所が全部やりますよという姿勢ではなくて、民間ができることは民間がする、地域ができることは地域がする、それが何かということを行政が対話の機会を作り、みんなで集まって考え、自分がこの課題をやります、私がやりますというような主体的なやり方に変わっていかなくてはならない。

・行政がいろいろなことをやってくれた時代に生きてきた人たちは、やっぱりもっと何とかしてくれみたいなことになると思うが、これはこれでやるならいいが、先々を見ていない感じがした。